

ミャンマーの民主化を支援する議員連盟 ミャンマー総選挙 2015 監視団 ミッチーナ班報告

■選挙監視団メンバー

上村真由 NPO 法人 PEACE 理事
小市琢磨 ロコモグループ代表取締役（カンボジア在住）
芹川智洋 ヒューマンライツ・ナウ
阪口直人 前衆議院議員

■選挙監視団（ミッチーナ班） 日程概要

11 月 7 日（土）

投票所視察

KDP 候補者インタビュー

11 月 8 日（日）

投開票監視

ミッチーナ No. 1 ハイスクール→ミッチーナ No. 5 ハイスクール→レゴンハイスクール
→レゴン No. 5 小学校→ジャンマイコーン小学校→ジャンマイコーン地区の小学校→
ワイモータウンシップ エーミャーターカー小学校→マテイン小学校

11 月 9 日（月）

市内視察

■監視活動報告

11 月 7 日（土）

投票日前日。既に選挙運動も昨日で終わり、ポスターも撤去されたヤンゴンの町を通りすぎて空港に向かう。

旧都マンダレーを經由して 3 時間弱でミャンマー最北部のカチン州の州都ミッチーナに到着する。

カチン州ではカチン民族の自治のために武力闘争を続ける組織 KIO が先月に調印された全土停戦にも参加していない。

紛争の続く東部のシャン州では選挙が実施されない選挙区があるが、カチン州でも選挙が出来ない村があるという。

緊迫した雰囲気があるのかと思っていたが、ミッチーナの街中は落ち着いた感じだった。空港でも EU から派遣された国際監視団の一員と出会って、彼らはカチン州のモガウンと

いう地方まで監視に出ると言っていた。

もう夕方になっていたが近くの投票所の様子を視察に行ってみる。

この投票所はミッチーナ第一高等学校の講堂の中に設置されており、他の投票所もほとんどが高校中学小学校などの学校が使用されている。

投票所内には7つの列が作られていた。

ミャンマーは地域 **region** と州 **state** から成り立っていて、**Region** では上下院と地方議会の3つの投票を行う。

これが州では地方議会が州議会になり、その他に民族議席 **ethnic representative** の投票が加わる。

その民族議席が4つの民族分あるので、それだけの列が出来ることになる。

投票箱は半透明の収納ボックスの蓋部分に穴を開けたものを使用している。

蓋はテープで固定され、さらに黄色いタグ付きタイラップで封がされている。

しかしこの投票所には選管の人間が誰もいなかった、明日の投票を中継する準備に来ているメディアの人たちがいるだけだった。

彼らもこの人が来るのを待っている状態だった。

投票箱も投票用スタンプも薄暗い講堂の中に放置して入り口は開いたままという不用心さで、誰かが不正をするために入り込むことも出来そうだった。

その後、カチン州議会の候補者の話をうかがった。

カチン民主党 **KDP Kachin Democratic Party** という政党で、以前は非公式の組織で20年活動しているが2003年から政党登録したという。

カチン民族の政党は18政党と色々あるが、**KDP** は政府寄りでも **KIO** 寄りでもない独自の政党であるようだ。

少数民族の多い各州では与党 **USDP** 対野党 **NLD** という構造だけでなく、こういった各民族の政党が多く選挙に参加している。

与党が **NLD** への投票を分散させるために各民族政党の登録を多く認めたのではないかとされている。

11月8日（日）投開票日

市内から外れたホテル内ではなく、市街の市場で朝食をとる。

街中の様子は停戦していないといっても政府軍の支配下の地域なので全く落ち着いている。

カチン州では仏教ではなくキリスト教信者が多く、ほとんどがバプティストだ。

人々の信仰もあつくバプティスト協会が多くの影響力を持っている。

投票日の今日は各投票所を巡るのだが、その車と案内もバプティスト協会の手配してもら

った。

まず昨日見た投票所に朝 8 時頃に行くと既に構内に車やバイクが数多く駐められ、投票所からは投票者の列がはみ出していた。

講堂の外には有権者名簿が張り出されていて、自分がこの投票所でいいのだと確認できるようになっていた。

内部では不慣れな投票者を各係員が誘導していた。

混雑しているものの、徐々に投票が進んでいた。

今日は制服を着た警備の人もいたが、たいした問題もないのでただ暇そうに椅子に座っていた。

その後、午後 4 時の終了時間までにあと 7 つの投票所を回ったが、どこも混雑はあるものの大きな問題は発生していなかった。

投票者の中には複数の投票があることが理解できずに一つだけで帰ってしまった人がいたり、間違っって自分の証明書を投票箱に入れてしまった人がいたそう。

投票所内では他人の投票を覗き見たりする人や、ある政党に入れるように勧めている人もいたりした。

5 年前の選挙には参加しなかった人も多く、その前の選挙は 25 年前なので投票の仕方が分からない人が数多くいたようだ。

それでも盲の人が付き添いを連れて投票に来たり、また近くの IDP キャンプから投票に参加する投票所があった。

IDP Internally displaced person とは国内避難民のことで政府と KIO の間の戦闘に巻き込まれるのから逃れてきた人たちだ。

国外に逃れると難民と呼ばれるが国内の場合は IDP と呼ばれる。

2、3 度他の国際監視団と同じ投票所にかぶってしまうことがあったので、ミッチーナを離れて隣の選挙区まで行って見たが、そこも混乱はなかった。

最後に訪れた投票所では 16 時丁度には入り口が締め切られたのだが、少し送れてきた投票者も入れてやっていた。

その投票が終わるとすぐに開票作業に移るのだが、投票者が不慣れならば選挙管理委員も不慣れだ。

未使用投票用紙に一枚一枚定規でバツを引いて無効としていくので、やたら時間がかかる。本来は学校の教室なので電灯が少なく、暗くなってきてから、はしごを持ち出して蛍光灯を付け足す。

事前投票の封を一枚一枚開いて各種類毎により分けていく。

そういった作業に時間をとられて2時間過ぎた6時ころになってようやく集計が始まった。しかし選管と各政党立会い人に一票一票開示して、確認していくので何時間かかるのか分からない。

おそらく明日の朝までかかる可能性が高いので、監視はそこまで切り上げた。

不慣れなものの大勢においては公正であると確認できたからだ。

この投票所ではほぼ USDP と NLD の候補者が得票を重ねていた。

地元のカチン政党の得票は低く、投票率も6割程度だった。

おそらくそれなりの数のカチン人が支持したい KIO が選挙に関与していないためもあるのかもしれない。

11月9日（月）

連邦選管による公式発表は明日ということだが、既に非公式な調査では NLD が各地で勝利しているらしい。

インターネット接続もあまり出来ないので情報があまり入って来ないが、ニュースを聞いた地元の人によるとそうだった。

おそらく各地に訪れた監視団もいることもあって大きな不正は行われず、前評判どおりに全体的には NLD が勝利することになりそうだ。



